

学校だより

《学校評価》特集号



令和5年3月22日

小野市立小野特別支援学校

令和4年度も、教職員・保護者によるアンケート、学校評議員等による関係者評価等を実施いたしました。そして、以下のように結果を分析し、まとめましたので、皆様にお知らせいたします。皆様からいただいた貴重なご意見は、令和4年度の学校経営や新たな教育実践等に生かしていきますので、なお一層のご支援、ご協力をお願いいたします。

……☆令和4年度 学校評価に関するアンケート結果の分析……

回答数:教職員 27、保護者 37

<A:よくできている B:おおむねできている C:あまりできていない D:できていない>

1、学校運営に関すること

(1)教育的ニーズに応じた教育活動の推進 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	個別の支援、指導計画をもとに個々に応じた教育活動が行われている。	17	10	0	0	
保護者	学校では、個々の子どもの能力や障害に応じた教育活動が行われている。	29	7	0	0	

・コロナ禍での教育活動であったが、児童生徒の9カ年を見通しを持った教育課程を計画的に実施してきた。特に「ねらい」を持って授業や行事等の教育活動に向け、職員間での情報共有や連携を重視するなど学部内や学級間でも子どもの姿を話し合うことで個々に合わせたきめ細かな指導に取り組んだ。
 ・危機管理体制に関して、各担当が新しい訓練や点検方法等を実施し、本校の実態に応じた学校安全の形を試行錯誤しながら構築している。

(2)教育方針や教育活動等の啓発 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校新聞やホームページ・学級通信等で情報発信、連絡帳等で情報共有を積極的に行っている。	17	10	0	0	
保護者	学校は、学校新聞やホームページ、学級通信等で情報発信、連絡帳等で情報共有を積極的に行っている。	25	11	0	0	

・ホームページの更新と学級通信などで最新の情報を提供することができた。
 ・連絡帳で学校での様子を具体的に伝えることで、保護者に教育活動を理解していただけた。
 ・学校通信で本校の教育活動を地域へ発信することができた。継続し教育活動の啓発に努める。

(3)安全安心への取り組み (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	安全点検を計画的に実施、安全管理、危機管理体制がとれている。	13	13	1	0	
保護者	学校は、安全面、危機管理面においての管理と指導をしっかり行っている。	28	8	0	0	

・危機管理体制の維持・強化に努め、計画的に訓練を設定した。教職員の動きや家庭との連携など、児童生徒への安全面での配慮事項など組織的に確認できた。
 ・安全連携の面では消防などの関係機関との連携を密にし、迅速に対応できる体制づくりを行なった。
 ・児童生徒への危険防止・危険予測・危険回避能力など安全教育の取組をさらに推進していく。

(4)環境整備の取り組み (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	校舎内外の美化と環境整備に努めている。	6	18	3	0	
保護者	学校は、校舎内外の美化や環境整備に努めている。	26	10	0	0	

・親子で大掃除等、保護者会とも連携して校内の環境美化に努めた。
 ・校舎等の老朽化に伴う環境整備は、関係部局と連携し計画的に改修を進めている。
 ・本年度は、自立活動室の床の張り替え、体育館・自立活動室の照明をLEDに交換した。

2、児童生徒の指導(学習・生活について)

(1)子どもへの理解と関わり

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童生徒が楽しく学校生活を送れるように、児童生徒理解に努めている。	23	4	0	0	
保護者	学校の教職員は、熱意を持って子どもに関わろうと努めている。	30	6	0	0	

・児童生徒の実態把握を行い、情報共有を基に支援体制を充実させることで児童生徒へきめ細やかな指導を行うことができた。
 ・コロナ禍で、交流校等と連携することが制約される事があったが、情報を丁寧に共有し対応できた。
 ・教職員の研修の成果が子ども理解へと直結し、専門家の指導助言を支援に活かせるようになっている。

(2)子どもへの指導、保護者への対応

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童や保護者の悩みや相談にきちんと対応し、児童生徒個々に応じた生活指導ができています。	15	12	0	0	
保護者	学校は、子どもや保護者の悩みや相談に適切に対応している。	28	8	0	0	

・児童生徒や保護者の方に丁寧に対応することができた。
 ・丁寧に引継ぎをし、継続した支援を行うことで、9カ年を通した成長を感じられる指導をさらに行う。
 ・保護者への対応は、連絡帳や電話連絡などこまめに情報を共有することに努めた。

(3)個に応じた教育活動

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	個別の指導計画は、保護者との協議を踏まえて作成し、学習内容と達成度をわかりやすく書いている。	16	11	0	0	
保護者	個別の指導計画は、保護者との協議を踏まえて作成され、学習内容と子どもの達成度がわかりやすく書かれている。	30	6	0	0	

・生活単元学習など、児童生徒が主体となって行事などを計画することで、楽しみながら自らの意見を発信する力と相手の言葉を受け止める力が身についた。
 ・計画的に、小学部中学部の連携を行うことで、児童生徒の主体性を育む機会となった。

(4)分かる授業

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	指導方法の工夫や授業改善等に積極的に取り組み、授業力向上につながっている。	14	13	0	0	
保護者	学校は、授業形態等を工夫し、分かって動ける授業づくりに取り組んでいる。	27	9	0	0	

・「分かる授業」としてカリキュラムマネジメントを意識した教育課程を編成した。修学旅行での電車等の乗車体験と国語や算数の教科学習と体感的な学習を意図的に整合させることで児童生徒にとって実生活に活かすなど、知識と体験の双方が充実した授業づくりに取り組んだ。
 ・児童生徒の実態に応じた授業を展開するために、学習へのアプローチの方法や練習から実践、振り返りまでを計画的に進めるなど、PDCAサイクルに基づいた授業実践に取り組んだ。

(5)ICT教育の効果

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	ICT機器(タブレットPC等)や教材教具の工夫を通して、学習内容の理解に役立っている。	10	14	3	0	
保護者	学校は、子どもの意欲を引き出すように、ICT機器(タブレットPC等)や教材教具の工夫を通して、学習内容の理解に役立っている。	31	5	0	0	1

・児童生徒が、ICT機器(タブレット)を使いながら目的に応じた情報収集ができるようになってきた。
 ・ICT機器を活用し、発達段階に応じた計算や書き取り機能の学習アプリケーションを使用するなど、個別最適化の学びにつながるよう取り組んでいる。
 ・リテラシー面は定着してきているが、授業中に違う機能を使うといった課題もある。

(6)健康教育の推進 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	児童の健康管理や健康保持、体力向上に努めている。	21	6	0	0	
保護者	学校は、子どもの健康管理や健康の保持増進や体力づくりに積極的に取り組んでいる。	33	3	0	0	
<p>・健康面や体力づくりにおいて、児童生徒の発達や成長段階を考慮し年間計画を立てた。体育的活動を効果的に実施することで、昨年度に比べ児童生徒の活動量が増加し心身の充実が感じられる。</p> <p>・小学部、中学部が連携したネチケツ教育・性教育は今後も続けていきたい。</p>						

(7)思いやりや助け合う心の育成 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	教育活動全般を通じて人権教育に取り組み、自尊感情や道徳心をはぐくんでいる。	13	13	1	0	
保護者	学校では、友だちとの関わりの中で思いやりや助け合う心を育てている。	30	6	0	0	
<p>・自尊感情や自己肯定感を高める活動として「ふれあいフェスティバル」等の表現活動の一つの軸とし教育活動に取組んだ。オペレッタの本番まで練習を重ねたことで、児童生徒は、生き活きと表現活動を行うと同時に友人関係の構築や社会性を高めることができた。</p> <p>・エピソード記述にとりくむことで、児童生徒の内面の実態把握に努めた。このことが、児童生徒の行動の裏にある心の動きを考え、実態に応じた支援を行う事につながり、児童生徒の思いやりや助け合う心の育成につながっている。</p>						

3、学校行事

(1)学校行事の精選、効果 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校行事は必要最小限に精選され、効果的に実施できている。	13	12	2		
保護者	学校は、子どもの興味関心を踏まえた学校行事や学部行事を行っており、様々な体験ができるように工夫している。	32	4	0	0	
<p>・9カ年の成長を見据えた教育課程を編成している。昨年度に引き続き、コロナ感染症防止対策に留意しながら教育活動を進めた。教職員は、児童生徒の活躍できる機会を増やすべく計画段階から十分に話し合い、子どもたちがゆとりをもって活動ができるよう取組んでいる。結果、児童生徒は、行事を通して「自信」を持つことができた。一つずつ行事を終えるごとに子どもたちの成長を感じる。</p>						

(2)オープンスクール、参観日の実施 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	参観日、オープンスクールの運営は、工夫して効果的に実施できている。	17	10	0	0	
保護者	学校は、オープンスクールを工夫して効果的に実施している。	23	12	0	0	
<p>・学習参観、ふれあいフェスティバル等できるだけ多くの保護者や関係各位から参観していただく機会を設けられることが児童生徒にとって良かった。しかし、コロナ禍での開催のため参観者への時間や行動等の制約をお願いした。保護者や関係からは授業参観等は「せっかくなので参観時間を長くしてほしい」という意見があった。</p>						

4、交流・連携について

(1)交流教育の推進 (人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	居住地校、近隣校との交流及共同学習が計画的に実施できている。	11	13	2	0	
保護者	学校は、居住地校や近隣校との交流を可能な限り行っている。	29	6	0	0	
<p>・子どもたちが豊かな人間性を育てていくことを期待し、交流校に赴き同年代の子どもや異年齢の子どもと交流することは、子どもたちにとって互いが関わり社会性を向上させる良い機会になった。</p> <p>・交流担当を中心に、時期や回数、内容等、交流の機会を設定することで徐々に交流範囲を広げていくことも可能だと思ふ。</p>						

(2)学校と家庭、地域及び関係機関との連携

(人)

No.	設 問	A	B	C	D	無回答
教職員	学校と家庭や地域・福祉・施設、関係機関と連携した教育活動が効果的に実施できている。	13	13	1	0	
保護者	学校は、家庭や地域・関係機関と連携した教育活動を効果的に実施している。	26	10	0	0	

・職場体験活動などを通して、保護者と共に福祉施設の見学や体験学習に参加できた。
・放課後等デイサービス事業所と連絡帳の相互閲覧や、コロナ禍で制限があったが長期休業中に、放課後等デイサービス事業所を教員が巡回することで、事業所での児童生徒の様子を知ることができた。学校・家庭・福祉事業所との連携に継続して取り組むことができた。



☆保護者からの意見☆

- 視覚支援を取り入れ、写真などで本人がしたいことの意味表示ができるようにしていただき感謝しています。
- 子どもの気持ちに寄り添ったかわりをしてくださり、細かな事まで学校の様子等情報共有していただき感謝しています。
- 子どもも担任の先生を信頼しており何でも話せる関係を築けております。
- しゃべれない本人のためにタブレットを使ったりして工夫してくださっているといます。
- その日その日の子どもの状態に合わせた適切な指導を行っていると思います。
- 日ごろから子どもの能力を伸ばすように考え工夫し声掛けをしてくださり本当に感謝しています。また様々な行事を毎年繰り返し経験することで成長させてもらっていると感じます。
- 毎日学校に楽しそうに行っている姿を見るのが何よりうれしいです。
- コロナのこともあるので難しいかと思いますが、オープンスクールの時せっかくなのでもう少し長い時間子どもたちが学校で生活している姿を見れたらと思います。
- 日々の生活の中ではいろんな先生方に関わっていただき学校であった時など話が聞けてうれしいです

☆学校関係者からの意見☆

1、学校運営について 評価 A

- ・コロナ禍でも目的をしっかりと明確化し、出来たことや反省もきちんと整理して、次へつなげる活動になっている。
- ・PDCAサイクルがしっかりまわっている。
- ・全体が一つの方向に進んでいることがよく分かる。チーム会議より全体へ実践しさらに目指す目標を確実なものにして欲しい。
- ・先生方各々が自らの職責を自覚しながら自らの能力や個性を発揮するとともに、小野特チームの力を生かしつつ、学校組織全体の総合力を高めるよう有機的な運営がおこなわれる態勢が構築されている。
- ・学校の危機管理はいくつかのチームに別れて安全な学校づくりに取組まれているのは効率がいい。
- ・ヒヤリハットについて、危険だったことを自由に報告できる仕組みであってほしい。
- ・ヒヤリハットをそれを共有し、みんなで気をつけるという意識が大切である。

2、児童生徒の指導について 評価 A

- ・エピソード記述は本当に良い取り組みだと思うので、先生と保護者間で共有化されるツールになっていけばよい。
- ・エピソード記述を大切に「心が動く」教育指導は今後も大切にしたい。
- ・一人一人の児童の人格を尊重し、社会的資質や行動力を高めることを目指しておこなわれており、生徒にとって学校生活が有意義で興味深く充実したものになっている。
- ・個々の能力、発達にあわせてカリキュラムを組んでいくことは、本当に難しい。
- ・障害は個々に違うしその日の状態に左右される子たちを見て常に修正を加えながらの毎日だと理解している。
- ・学校生活は長いようで短い、卒業後の生活を見据えて少しでも自力で出せることを増やせることができればよい。
- ・児童生徒の様子を保護者への連絡帳や電話などで丁寧に伝えていることが理解できる。

3、学校行事について 評価 A

- ・教師と保護者以外の方との交流が増えるともっと良くなるかと思う。
- ・コロナ禍でもあり行事も大変だったと思うが、子どもを前面に出して個を見ることができてよかった。
- ・児童生徒にとって、多彩な内容を持つ総合的、体験的な活動となっている。
- ・学校生活をより豊かな充実したものにする活動となっている。
- ・学校への行事への参加、協力を通じての自主的実践的な活動となっている。
- ・ふれあいフェスティバルや運動会、トライやるウィーク、職場体験実習、修学旅行など、よく実施されている。
- ・行事の実施について、迷うところであったと思うが、子どもたちのいい体験になることを多くしてほしい。
- ・コロナ禍でも中止にするのではなく防止対策をしながら縮小や、時間をずらすなど工夫して実施出来たのでよかった。

4、交流・連携について 評価 B

- ・学校どうしだけでなく、事業所やサークルダンス、絵画、音楽等々との交流が出きれば子どもたちの感受性が高まる。
- ・職場体験など子どもも保護者も今、そして将来を見据えて実践できている。
- ・子どもは地域に帰ったときにどうしているのか、卒業後のあり方についても交流、連携は大切である。
- ・先生方各々が顔の見える日常的なつながりを構築しており、お互いがフィードバックを行ない、報告しあったり定期的に相談することができている。
- ・どれだけ多くの人とふれあい、かわり合うのかがとても大事である。
- ・コロナの時であっても、加西や三木の特別支援学校や近隣校との交流をされているので評価できる。
- ・多くの子どもたちに世の中、いろんな人たちがいることを小さい頃から知ってほしい。大人になってもその記憶は残る。
- ・居住地交流、近隣校との交流は、子どもも喜んで参加している。
- ・放課後等デイサービス事業所にも今年はオペレッタを見てもらえてよかった。